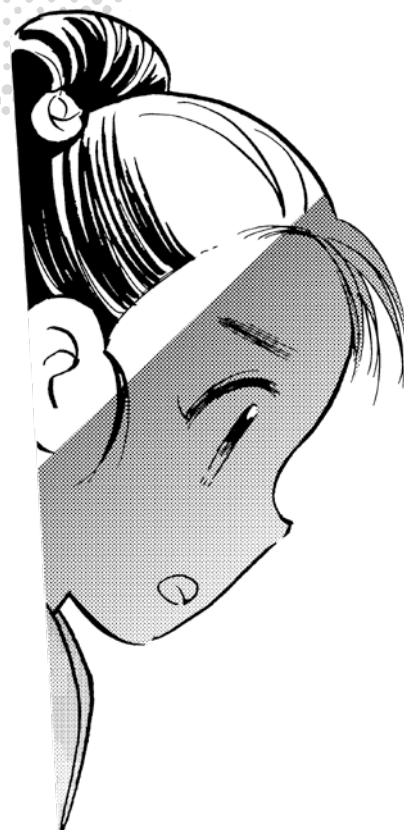


第3章

発展と世界恐慌

～街の元気は通明の元気～

大正元(1912)年～昭和初期



ある日
小さな桐の花が
思ったこと

『私も大好きな
この学校の
子どもたちと
もっといっしょに
いたい……』

まだ小さな
桐の花よ……
わかりました

桐の精は
静かに
答えました

キリさん
もしあなたが通明小学校の
子どもたちと一緒にいたいなら
この学校を見守る妖精として
力があるのかを試します

それはこの弱った桐の木のために
“通明の元気を集めること”
その約束が果たせたら
あなたの願いはかなうでしょう

通明を想う
友だちと共に
お行きなさい
150年をめぐる
旅へ……

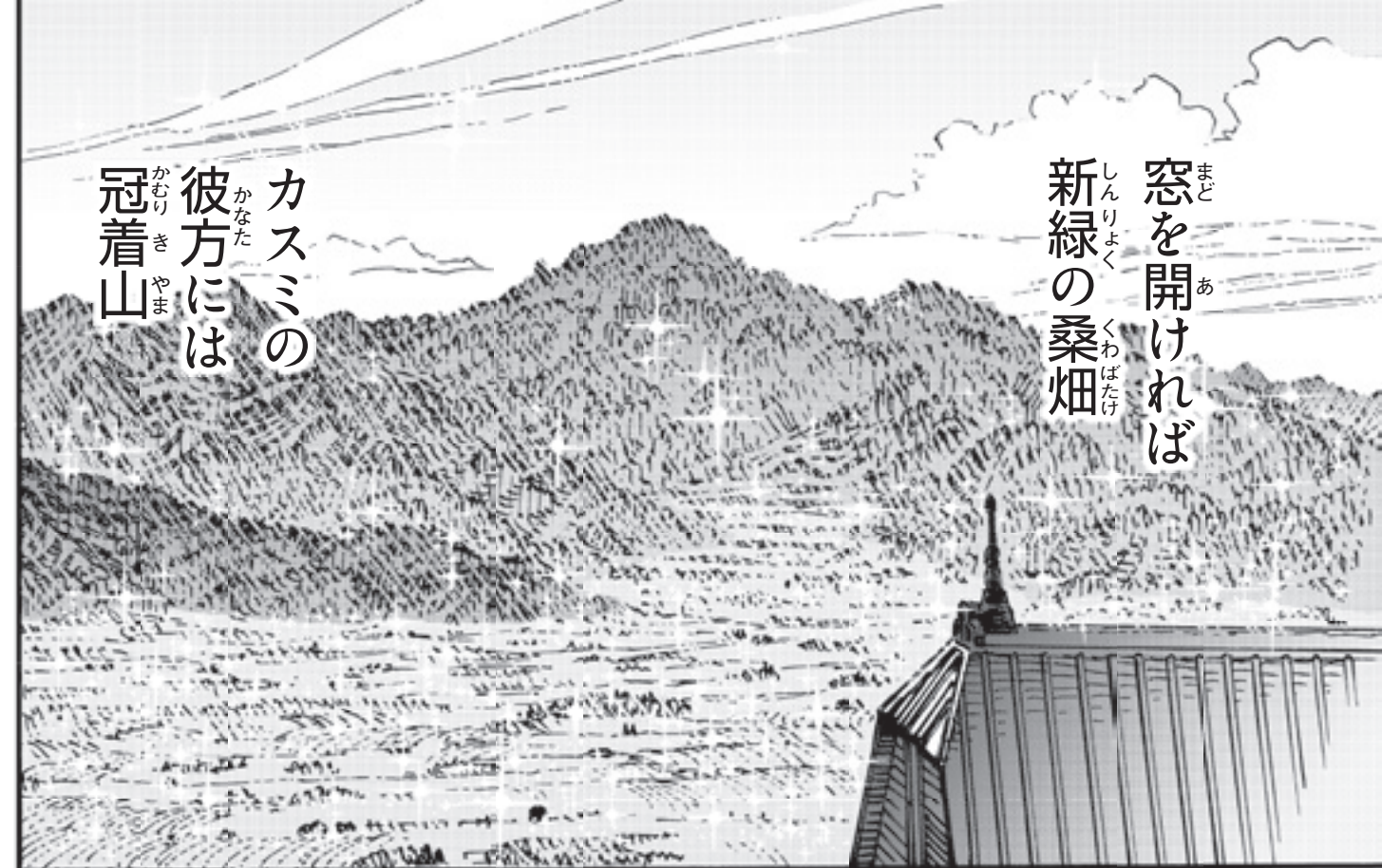
通明小学校
昭和元年頃

校門前では
老樹の桜の
花吹雪の舞を
ながめ

滔々と
清澈たたえる
大川の小川の魚を
素手でつかまえた

この水は犀川より
取水された
農業用水路で
千曲川に向けて
葉脈のように
広がって
江戸時代から
うるおす

その水と台地の恩恵は
この通明小学校を
育んだ更級郡（篠ノ井）の
生命を輝かす



※通明小学校百年史 卒業生伊藤嘉三郎さん（大正14年入学）の「思い出」より





救護
急げ!!

中央線 東海道線が
全線不通となり
関西方面へ逃げようと
した被災者が信越線で
鉄道の要衝だった
篠ノ井駅に押し寄せた

避難者下車数
5748名
宿泊人数
2479名
救護者
1415名



学校の近くで
そんな大変な
ことがあったの？

でも
街の人たちも
がんばった
んだね

篠ノ井の街の人達の
奮闘は17日間続いた



もつと
人手を
まわせ!!

炊出しは
こっちだよ

炊出し
内堀青島



もう
あきた
なア...

しっ...
おまえは
まだマシ
だろうが!



さあ
昼メシは...

うわっ!
また日ノ丸
弁当か...



第一次世界大戦が
始まり

関東大震災で
日本経済は混乱

さらにアメリカで起こった
世界恐慌が日本にも押し寄せ
学校や教育にも影を
落とすの

でも
大正から昭和のはじめは
街が大きく発展した
だけでなく新たな
転換期の始まり
でもあったの

それは厳しい冬のような時代...



大正12(1923)年
9月1日に関東大震災
が発生

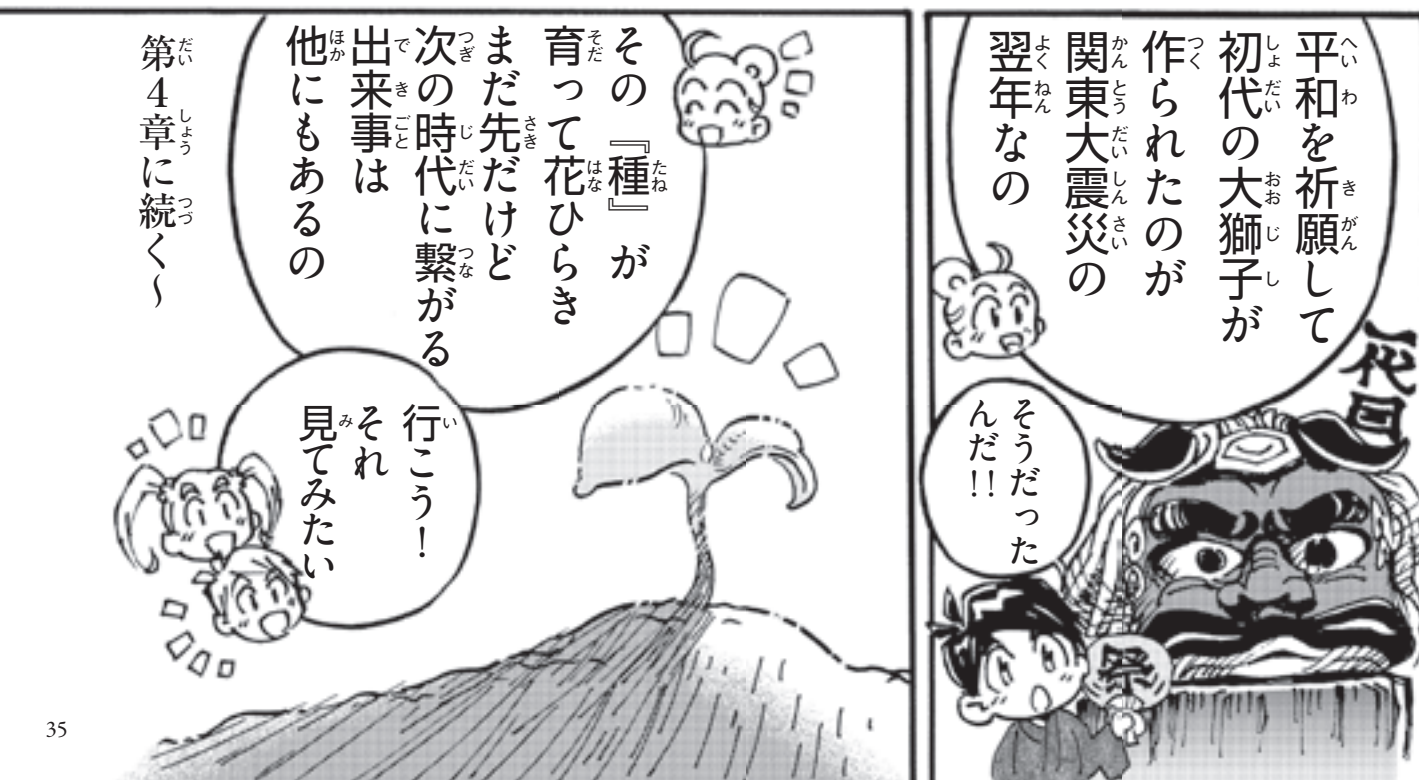
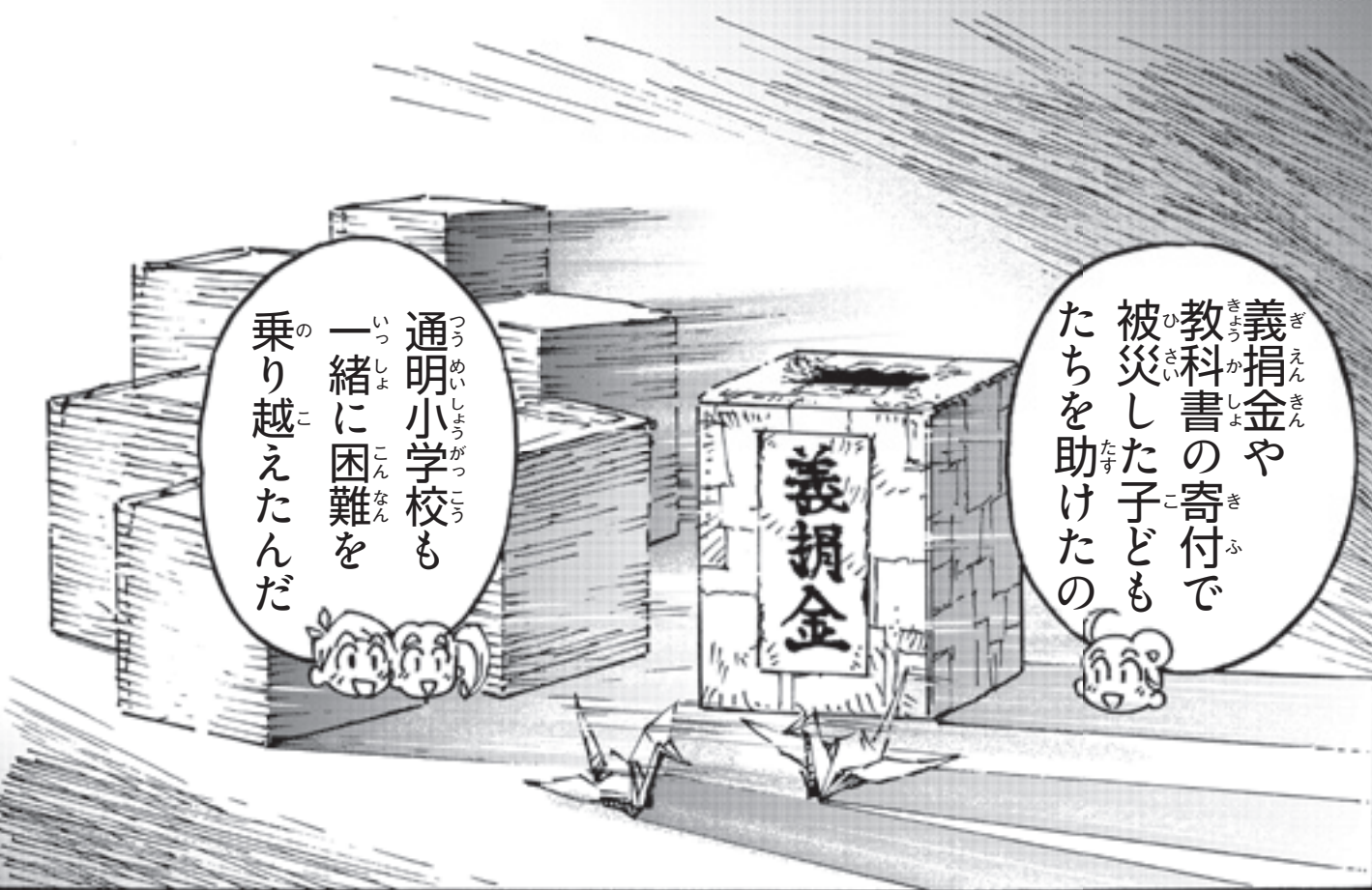
篠ノ井駅

上田市からは
夜東京方面
から赤い照り
返しがはつきり
見えたそうよ

次の汽車が
着くぞ!!

包帯を
こっちに

早く
運べ!!



第3章 災害や貧困の歴史

【関東大震災（かんとうだいしんさい）】

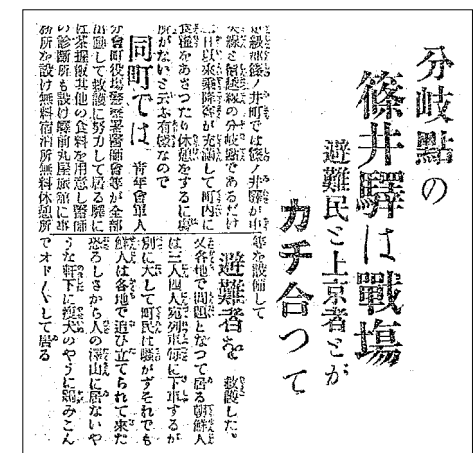
大正12年9月1日11時58に神奈川県西部を震源とするマグニチュード7.9の地震が発生しました。この地震の発生が昼食の時間と重なったことから、多くの火災が起きて被害が拡大しました。また、津波、土砂災害なども発生し、死者・行方不明者は10万5千人余にのぼりました。この地震によって生じた災害を「関東大震災」と呼んでいます。

壊滅状態となった東京から、多くの避難民が鉄道で地方各地に向かい、篠ノ井駅でも乗り換えで降りる被災者に対して、食料・宿泊・医療等の救援活動が行われました。

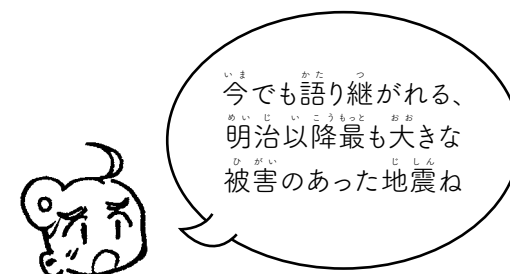


関東大震災 篠ノ井駅前の救援

（出典：篠ノ井ボランティアガイドブック篠ノ井の風土と歴史）



信濃毎日新聞夕刊記事（1923年9月6日）



今でも語り継がれる、明治以降最も大きな被害のあった地震ね

【昭和恐慌（しょうわきょうこう）】

アメリカで起きて世界に波及した急激な景気の悪化（世界恐慌）が、昭和5～6年にかけて、日本経済に危機的な影響を及ぼしました。

長野県の農家の80%は養蚕農家（蚕を育ててまゆを出荷）であり、まゆから紡いだ生糸の大部分をアメリカに輸出していたため、昭和6年の農家の平均収入は、昭和4年の2分の1にまで減少する深刻な状況になりました。生活苦を克服するため、国策として農業開拓移民が中国東北部（満州）へと送り出されました。

長野県からの開拓移民は、33,000人と全国一の多さでした。